



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

## コナジラミ類対策 ～育苗期・定植時～

対象病害虫によって希釈倍率が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

### 灌注剤

育苗期後半～定植当日  
ベリマークSC



※ミネクトデュオ  
粒剤と併用不可

IRAC : 28  
25ml/400株  
(散布液量 : 10～20L/400株)  
マルハバチ影響日数 1日

※定植3～5日前処理がお勧め!

### 粒剤

育苗期または定植時

アルバリン粒剤



IRAC:4A  
1～2g/株  
マルハバチ影響日数  
10日(クロマル22日)

※育苗期1回・定植時1回  
使用可能です

ベストガード粒剤



IRAC:4A  
1～2g/株  
マルハバチ影響日数  
30日以上

※定植時までで1回以内

鉢上げ時～育苗期後半  
または定植時

ミネクトデュオ粒剤



※ベリマークSC  
併用不可

IRAC:28,4A  
2g/株  
マルハバチ影響日数  
21日

※育苗期に処理した場合、  
定植時には使用不可

### 粒剤施用例



育苗期 株元処理



定植時 植穴土壌混和

※時期によって**使用方法**が異なります。ラベルをよく確認してご使用ください。



### この症状はどんな病気? ～立枯病～

【トマト立枯病】 *Fusarium solani-melongenae*  
(*Haematonectria ipomoeae*)



地際部や葉かき跡の茎が褐変・ひび割れし、  
赤い小粒を形成する場合があります。

茎の内部まで広がると、株は萎れ、枯れます。

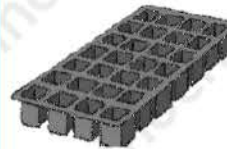
土壌伝染や、発病部から菌が飛散し、  
傷口等から二次感染します。



### 【対策】

- ▶ 株ごと抜き、圃場外へ処分
- ▶ 土壌消毒・資材の交換や消毒

## 資材消毒していますか?



セルトレイやポット、支柱など病原菌が付着したままだと、越冬していても使用すると、翌年感染源となる可能性があります!



また、剪定用のハサミに菌が付着したまま使用すると、切断面から感染させてしまう可能性もあります。

大切な作物に病原菌を感染させないように、  
育苗期も栽培中も資材消毒が重要です!



野菜類使用例 50aあたり6.25g(1袋)

葉面散布/1～2回/生育初期

窒素固定細菌Gd(グルコンアセトバクター-ジアゾトロフィカス)  
葉から植物体内に入り、空中の窒素を供給!  
窒素不足時に効果を発揮するため、窒素過多の心配もなし!



酷暑対策に

収穫物の  
品質向上に

作物の  
生産性向上に

高温対策専用 バイオスティミュラント

## 炎天マスター



高温ストレスに遭遇する前に処理すると…

→高温耐性のスイッチON!

◎ HSF遺伝子の発現量増加  
(高温に備える指令を伝える遺伝子)

◎ 活性酸素種(ROS)の除去  
(ストレスを感じると増加し植物を傷つける物質)

500～1000倍  
7～14日間隔  
葉面散布

